【総人口】1,273,967人

【主担当部局】山口県乳幼児の育ちと学び支援センター (公立幼稚園担当)

【主な関係部局】山口県健康福祉部こども・子育て応援局 こども政策課

> (保育所・認定こども園担当) 山口県総務部学事文書課 (私立幼稚園担当)

【自治体 関連URL】https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数	1	23	126	90	179	15	22	2	291	0
園児・ 児童数	68	335	10,041	5,294	16,002	1,278	2,668	773	59,459	0

事業実施地域・ 協力園校

【実施地域】

下関市、柳井市、周南市、阿武町

【協力園校】

幼:公立保育所1園、私立保育所1園、公立幼稚園1園、私立幼稚園1園、私立認定こども園1園

小:公立小学校5校

架け橋期の カリキュラム開発 会議

【会議委員人数】

17名

計9回

【開催数】

【委員属性】

学識経験者2名、私立保育所長1名、公立幼稚園長1名、私立認定こども副園長1名、公立小学校長1名、地域住民代表者 1名、市町幼児教育・保育主管課保幼小連携担当者1名、市町教育委員会保幼小連携担当者1名、乳幼児の育ちと学び支援 センター3名、教育庁義務教育課1名、教育庁特別支援教育推進室1名、教育庁地域連携教育推進課1名、健康福祉部こど も・子育て応援局こども政策課1名、総務部学事文書課1名

架け橋期の
コーディネー
h 55
夕—等

【配置人数】

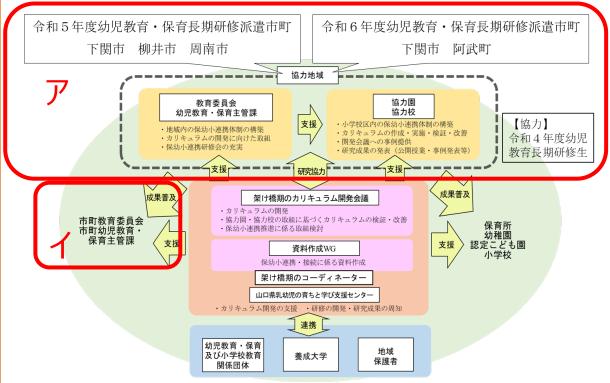
4名

【経歴】

- •現保育者養成大学准教授
- •現私立保育所長
- ·元公立小学校長、現私立幼稚園長
- ・元公立こども園長、中学校長

	【開発主体】]
	下関地区①	(1公立幼稚園、1公立小学校)	
架け橋期の	下関地区②	(1私立認定こども園、1公立小学校)	
カリキュラム	柳井市	(1私立保育所、1公立小学校)	
	周南市	(1私立幼稚園、1公立小学校)	
	阿武町	(1公立保育所、1公立小学校)	

- 1 事業実施の目的
 - 園と小学校が主体的に関わり合いながら開発する架け橋期のカリキュラムの在り方について調査研究を行い、その成果を全県に周知する。
- 2 事業実施体制や取組内容
- (1) 事業実施体制



(2) 取組内容

ア 幼児教育・保育長期研修を活用した協力地域の設定

小学校教員を保育所・幼稚園・認定こども園に派遣。 乳幼児期の教育・保育を踏まえた小学校での支援を研究。

【協力内容】

- ・架け橋期のカリキュラムの作成
- ・架け橋期のカリキュラム開発会議への事例提供
- ・県主催の保幼小連携研修会での授業公開・取組発表
- イ 教育委員会と幼児教育・保育主管課の連携の充実
 - ・市町保幼小連携担当者研修会の開催

(教育委員会と幼児教育・保育主管課の担当者が同席)

回	研修会の内容	日時(予定)	会場
第1回	架け橋期のコーディネー	5月16日(木)午後	オンライン
	ターによる講演、協議等		
第2回	市町・長期研修派遣教員	2月4日(火)午後	山口県庁
	取組発表、協議等		

- 3 事業を実施する過程で生じた課題と、その解決方法
- 園と小学校が架け橋期のカリキュラムに関する取組を行うためには、市町の教育委員会と幼児教育・保育主管課の連携したサポートが必要不可欠であった。 そこで、合同研修会の開催等、教育委員会と幼児教育・保育主管課の連携を図る取組を行った。
- 4 事業の成果と今後の課題

意見交換や合同の研究の機会等を設けている園と小学校の割合が増加した。また、園では「子どもの育ちを見通す」、小学校では「園での子供の経験を生かす」など、保育や教育の見直しや工夫が行われるようになった。引き続き、対話を大切にしながら、架け橋期のカリキュラムの実践を進めていきたい。

- 1 架け橋期のカリキュラムの開発に当たって、幼保小の関係者で大事にした視点
 - ・様々な立場の者が協働して開発に当たること
- ・対話を通した相互理解を大切にすること
- 2 架け橋期のカリキュラムが完成するまでの協議内容・プロセス
- (1) 協議内容
- ・開発の方向性…県として大きなねらいをまとめつつも、柔軟に市町によって特性を生かせる形がよい。
- ・共通の視点…「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を重視するとよい。「育みたい資質・能力」や「ねらい」は例として示すべき。
- (2) プロセス

【幼児教育・保育長期研修生(協力園・協力校)との研究協力】

研修生は、架け橋期のカリキュラム開発会議で協議した「共通の視点例」をもとに架け橋期のカリキュラムを実際に作成、実践するとともに、架け橋期のカリキュラム開発会議へ事例提供を行った。それを受けて架け橋期のカリキュラム開発会議で「開発の方向性」や「共通の視点例」について再び協議を行った。

3 架け橋期のカリキュラムの内容

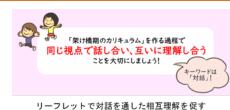
【山口県の架け橋期のカリキュラム開発の方向性】

- ○地域、園・小学校が創意工夫しながら、それぞれの特色を生かして架け橋期のカリキュラムの作成ができるようにする。
- ○山口県における「共通の視点例」及び実践事例を示すことにより、各園・小学校、市町が架け橋期のカリキュラムを作成する上での手掛かりとできるようにする。

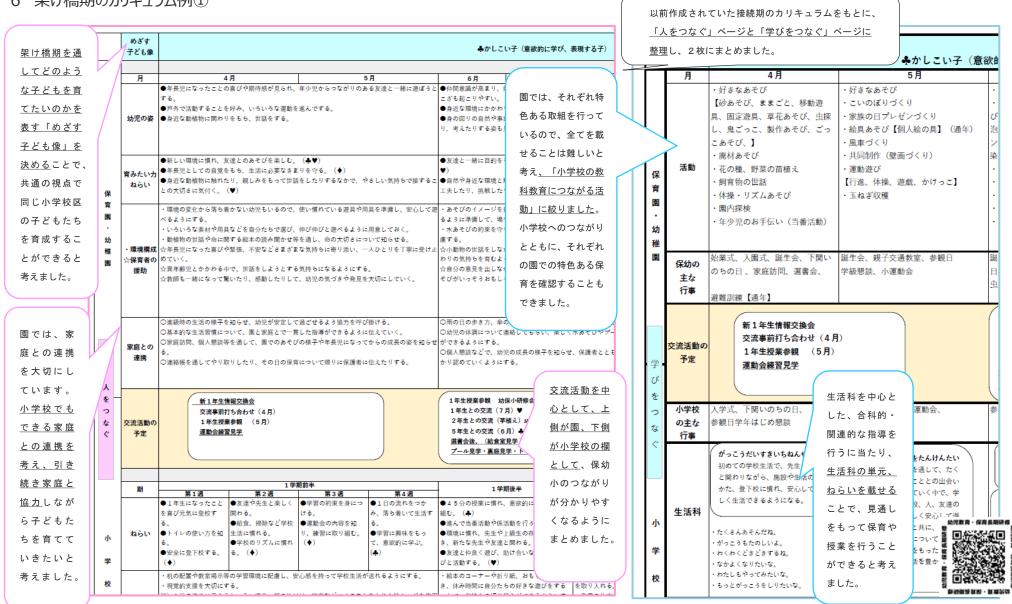
【山口県の架け橋期のカリキュラムの「共通の視点例」】

- ○子どもたちの現状 ○めざす子ども像 ○育みたい力 (育みたい資質・能力、重点を置きたい10の姿、ねらい等)
- ○育ちと学びのつながり(園での活動と小学校の学習のつながり)
- ○人のつながり(子ども同士のつながり…交流活動、先生同士のつながり…合同会議等) ○指導上の配慮事項(先生の関わり、環境の構成)
- 4 架け橋期のカリキュラムを園校で実践したことによる先生方の指導の工夫や子供の姿の変化(事例)
 - 【協力園】小学校と協議して設定した「めざす子ども像」の育成に向けて、子どもの思いを引き出す関わりを意識した。目標を自分で決めたり、活動に対する気付きを深めたりする子どもの姿が見られた。また、子どもの姿から保育を見直そうとする意識が高まった。
 - 【協力校】これまでは、子どもたちに、教師が設定した活動を提示し、指示を出すことが多かったが、現在は、1年間を通して、様々な場面において、園での経験や活動したいことを尋ねている。主体的な子どもの姿が多く見られるようになってきた。
- 5 実践結果を踏まえて、架け橋期のカリキュラムを見直した点・改善した点(事例)

【協力校】「めざす子どもの姿」の中でも、特に大切にしたいものがあることに気付いた。重点事項を設定し、記す順番等、表記の仕方を変更した。



6 架け橋期のカリキュラム例①





さい。



校でも活用できるようにしました。

O自分でできることを自分でしよ うとする。【②】 送ることができる。【①】 ○気持ちのよい挨拶や会釈、返事を しようとする。【①】 たりすることができる。【①】 〇必要なものや日課を自分で準備 しようとする。【②】

○時間を意識して行動しようとす る。**[**①②] ○楽しくマナーよく給食を食べよ

4月 · · · · · · · 8月 9月

うとする。【①⑤】 ○先生や友達の顔と名前を覚え、進

んで関わろうとする。 [3] 〇分からないことや困ったことは

先生や友達に聞こうとする。 【③】 ○学校のきまりを知り、ルールを守 って生活しようとする。【④】

〇場に応じた言葉遣いの大切さを 知り、使おうとする。 (4)

○学校応援団など地域の方とのふ れあいを楽しむ。【⑤】 ○教科等の学習に興味・関心をも

つ。[⑥] ○校庭の自然に触れて、その変化を

〇自分たちの遊びや生活、学習の中 で楽しみながら数えたり比べた りする。【®】

感じる。【⑦】

○友達や先生との会話を楽しむ。 (9)

○友達と楽しく歌を歌ったり、絵を

○学級や学校での過ごし方について知り、見通しをもって学校生活を

○登下校や学校生活の中での安全な過ごし方について考えたり判断し

○生活や学習の中で、めあてをもって取り組み、振り返ることができ **る。**[②]

〇係や当番活動など自分の役割を果たすことができる。【②】

◆和6年

小学 | 年生

教科等を通した学び

○学校行事を通して、新しいことや初めてのことにも進んで挑戦し、 友達と協力しながら活動することができる。 [3]

○相手の立場に立って考えたり、気持ちに寄り添おうとしたりするこ とができる。 [④]

Oよいことと悪いことを判断し、よいと思うことを進んで行おうとす る。[④]

○友達との関わりの中で思いやりをもって言葉をかけ、行動すること ができる。[4]

○行事や交流を通して、自分の成長や頑張り、友達のよさに気付くと ともに、いつも自分を支えてくれている周りの人に目を向け、感謝 の気持ちをもつことができる。【⑤】

○探究心をもって予測したり、試したりして主体的に学習に取り組む ことができる。【⑥】

○植物や生き物と関わり、生命を大切にしようとする。【⑦】 ○数量や図形、標識や文字などを生活や学習の中で使うことができる。【⑧】

Oいろいろな場面での話し合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、 友達の考えを聞いたり、質問したりすることができる。【⑨】

○肺書習慣を身に付け、言語に対する興味関心を広げるとともに、感じ たことや考えたことを自分の言葉で表現することができる。【⑨】

○自分のイメージを動きや言葉、絵などで表現することの楽しさを味 わう。【⑩】

1年生前半期は、「~しようとする」という意欲目標としました。 そうすることで、子どもたちに、寄り添った支援や言葉がけがで きるようにしてほしいとの願いを込めています。

子どもの姿 が、「幼児 期の終わり までに育っ てほしい 姿」とつな がっている のかを確認 できるよう、 番号を記入 しました。

3月



